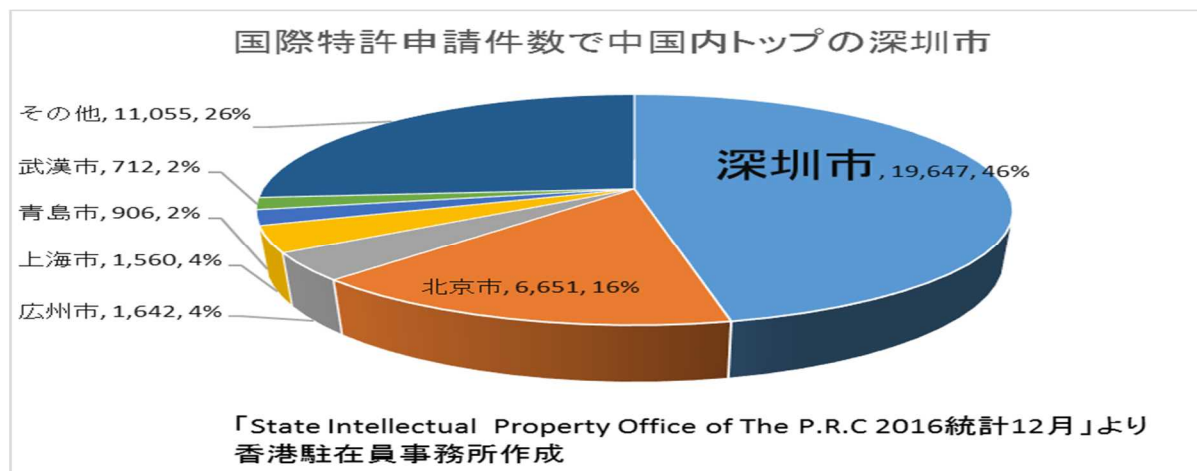


## 125 No. 5: 創造の拠点、人材集う 変貌する中国華南地区～深圳～ (平成 30 年 6 月)



メイド・イン・チャイナ（中国製造）からクリエイテッド・イン・チャイナ（中国創造）へ向かっている。世界知的所有権機関（WIPO）のガリー事務局長が指摘する。国際特許登録出願件数において、中国の出願件数は増加を続けており、3年以内には首位の米国を追い越すとも言われる。とりわけ中国華南地区にある深圳市は、2016年の出願件数が1万9647件と中国の中で断トツのトップであり、イノベーションの都市として最も注目されている。

深圳市がイノベーションの都市に育った主な要因は①政府が産業の高度化、イノベーションを推進していること②華南地区は世界の工場と呼ばれ、分厚い産業集積が形成され開発品の試作・製造が容易であること③自由なビジネス環境にある香港に近接し、スピード感のある事業展開ができること一が挙げられる。

いまや世界中から多くの企業家や優秀な人材が深圳市に集まり、新たな産業や企業が生まれている。グローバル企業の研究開発拠点の設置も進んでいる。

当事務所では、当地進出企業に対し、このイノベーション企業との接点や取引可能性の有無をヒアリングしたが、ほとんどの企業の回答が「無し」であった。

取引上、信用面で不安がある上、中国で新分野・新技術を開発することに抵抗があるようだ。これまで、当地進出の主な目的が、『日本で開発した既存製品を当地で製造・販売すること』だったことが背景にある。

日本貿易振興機構（ジェトロ）では中国企業と連携して、新たなビジネスや技術を創出する企業の進出を支援する事業を立ち上げた。今後、技術開発力がある企業などの進出を見込んでいるようだ。

香港では、深圳市のイノベーションに対する日系企業の関わり方が高い関心事になっている。当事務所では、政府系機関・大手銀行の調査部門と意見交換したり、セミナーへ参加したりすることで、現地イノベーション企業との関わり方や、新たな進出形態の検討などについて調査し情報発信をしていくことで、進出企業の発展に貢献したいと考えている。